

会は、七月四日・五日、秋田県大館市民文化会館など三つの会場で開催され、「生きることを子どもと共に見つめて」の大会テーマの下、東北各県から千二百名以上が参加しました。開会式の挨拶に立った佐野元彦・大会会長は、教育の究極の目的は「自己実現」を目指して成長しようとする人を育むことにあり、子どもだけでなく親や教師も成長を続けることが重要であることを強く訴えました。続いて行われた四会場に分かれたの研究協議の中では、平商業高校の長嶋修一会長が「負けな

い平商を応援する生徒・学校をサポートするPTA」の演題で、東日本大震災後の厳しい環境下で奮闘する生徒たちと、生徒と一体となって地域の復興を目指すPTAの活動を報告し、会場を大きな感動で包み込みました。

最後は、劇団「風」による「ヘレン・ケラー」ひびきあうものたちの公演を鑑賞し、「飽くなき人間への好奇心と愛情の交感」が実現した小さな奇跡を疑似体験しながら、教育の原点について考えているうちに閉会となりました。

県高P連専門委員会報告

総務委員会

委員長 湯浅 大郎
(安積高校)

七月三十一日(木)、第一回総務委員会を福島県青少年会館で開催し、以下の議案について協議しました。

一、東日本大震災への対応について

本件については、今後も注視していく必要があります。

なお、東日本大震災への対応についての県教育委員会への陳情については、九月一日(月)に会長、副会長、事務局長の七名で県教育庁を訪れ、杉昭重教育長へ要望書を手渡すとともに、内容について意見を交換してきました。

進路対策委員会

委員長 大河 政一
(福島南高校)

東日本大震災と原発事故は、発生後丸三年を経たなお本県の高校生学習・生活環境に深刻な影を落としていることに鑑み、来春の開校を予定している中高一貫校(ふたば未来学園高)の整備充実も含めた全六項目から成る要望書を県教育委員会に提出し、陳情を行うことにしました。

二、全国高P連義援金の扱いについて

全国高P連から寄贈を受けた第六次義援金については、全額を相双地区の各高校並びに地区会へ贈呈することとし、その配分額を決定しました。

三、県立高に設置されている自販機の管理について

県は、敷地内の自販機の設置使用料を直接県に納めさせる方向で検討を進めていましたが、様々な取り組みによって、従来通りPTAなどによる管理を継続することが認められました。

健全育成委員会

委員長 八巻 則夫
(新地高校)

今年の県高P連健全育成委員会の活動方針は、①健全育成及び安全教育についての関係機関や諸団体との連携強化 ②交通安全教育の推進と支援 ③生徒会活動の活性化やボランティア活動への協力 ④善行生徒の顕彰の四項目です。この活動方針に沿った活動を各単Pで行っています。

また、全国高P連・東北地区高P連の活動と連動した活動をしており、今年度も「登校時一声運動・マナーアップ運動」を実施し、その報告書を作成することになりました。この運動は、広く各単Pにおいて定着し、子どもの家庭とは違う一面を見ることができた「生徒の朝の様子」がわかったなどの感想があり、成果も認められているところです。今後は、学校間での協力や地域との連携を図るなど、地域を巻き込み、活動の輪が広がることを期待します。尚、報告書は、集計・分析され、二月末に発送の予定です。

子ども達を取り巻く環境も大きく変化し、スマートフォン利用によるトラブルが増加してい

調査広報委員会

委員長 四柳 政昭
(郡山東高校)

調査広報委員会は、平成二十六年七月三十一日福島県青少年会館にて第一回調査広報委員会を開催し五地区の委員が参集、本年度の年間活動を協議しました。主な活動は広報紙コンクールの実施と県高P連会報の発刊について決定を致しました。本年も東北高P連広報紙コンクールに向けて、単P広報紙を各地区にて代表三校の選考を行い、五地区十五校から県代表

ます。また、自転車の危険運転が大きな社会問題になっております。今後も学校・地域と保護者が連携して子ども達の健全な育成を図るために、それぞれの役割を果たし、子ども達の成長を手助けしていきたいと思いま

梁川高等学校PTA活動

PTA会長 紺野 修一

今年度、校舎の全面耐震強化工事が完了し本校のシンボルカラーであるブルーをあしらった綺麗な校舎に生まれ変わりました。二十四年度六月からPTAとして生徒、教職員有志で花いっぱい運動をスタートさせました。明成高校さんにお世話になりプランター五十台に花苗を植えました。昨年にはチューリップ三百球余りを植え、この春見事に咲き誇りました。二十六年度初夏には校舎正面玄関前にある石庭の古くなった芝生部分の花壇化に着手しました。勿論、綺麗に咲く花を愛でるのも大変素晴らしい事です。が、保護者生徒、教職員が一つの目的の為に協力し合う事が何よりの活動意義であると感じました。

また、六月と十月の朝のあいさつ運動も恒例で行っており、生徒達の学校生活の傍らにPTAの存在を感じてもらえるよう

全国大会 栄光を称えて

北工から世界へ！

郡山北工業高等学校

私達は仙台市で行われた第五回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテストに出場し、念願の世界一になることができました。この大会はMEMSデバイスという小型のセンサを使用し製品開発・プレゼンテーションを行い、その実用性や新規性、技術力を競い合う大会です。参加資格は高校生から大学院生までとなっており、技術力が求められます。私達はこの大会で様々な災害に対応できる多機能防犯ロボット「ProROBO」を製作しました。製作していく中では何度もつまずき失敗を重ねましたが、その度にチームで協力し合い完成させることができました。チームワークの大切さを深く実感しました。

この大会を経験し、今後の自信に繋げることができました。最後に、今まで支えてくださった家族や先生方、そして応援してくださった皆様方に感謝いたします。

福島の酪農家を笑顔に

郡山北工業高等学校電気科

私達は「グラスカッター酪D A農」を製作しました。牛に与える牧草の放射能検査をする時に、1cm以下に切り刻む必要があります。これを自動化させるための機械です。酪農家の方々の一助となりたいと活動をして

きました。

この酪DA農は、第七十二回全日本学生児童発明くふう展で内閣総理大臣賞をいただきました。私達は一年生チームで、初めての作品でした。製作のノウハウがなかったため、試行錯誤の繰り返しでしたが、みんなで作り上げました。その作品で賞をいただけたことが、とても嬉しかったです。

また、酪DA農は福島県内の酪農家の皆さんに使っていただいています。酪DA農が復興の一助となる製品になれば、幸いです。



努力の先に

磐城高等学校

放送委員会

私たち磐城高校放送委員会は「ぼくはラグビー部」という作品で、NHK杯全国高校放送コンテストテレビドキュメント部門で優勝することが出来ました。この作品は、放送委員会の顧問健佑君がひよんなきっかけからラグビー部に入部し、活動を通して彼が成長していく様子を記録したドキュメンタリーです。

私たちは三年生は、どんなコンテストでもなかなか結果を出すことができませんでした。また、先輩方はNHK杯で三年連続優勝という素晴らしい成果を残しており、プレッシャーも大きくありました。しかし、高校生最後の作品で優勝できたのは、支えてくれた大切な仲間や顧問の先生、協力してくれたラグビー部の方々を始め、応援してくれた全ての方のおかげです。心から感謝しています。「優勝は、福島県立磐城高等学校」と呼ば



れたときの感動を私は一生忘れません。

東北初の日本一！ そして全国初の 全国大会三冠達成！

郡山商業高等学校

珠算部顧問 中西 良夫

八月三日、東京都立早稲高等学校で行われた第六十一回全国高等学校珠算・電卓競技大会に出場しました。高校野球では良く言われますが、「優勝旗が北海道には渡ったものの白河の関を越えたことがない。」これは、珠算や電卓の世界でも同じでした。しかし、今回、東北初の団体総合競技優勝を果たすことができました。また、この大会で優勝したことにより、全国初となる全国大会三冠を達成しました。

今年、日本一を狙える生徒が揃っていたので、北は北海道、南は九州まで遠征や練習試合を重ね、この場所でも、どのような環境でも実力を出し切るという練習に取り組んできました。遠征費がかさむなか、応援してくださる保護者、遠征を



承諾してくれる学校関係者、一緒に練習してくれる他校の先生や生徒、そしてどんなに怒られても文句も言わずついて来てくれる生徒がいるからこそ達成できたことだと確信し、感謝しております。

生徒たちと協力し、今後も日本全国に「福島県」「郡商」の名を響かせていきますので、応援よろしく願います。

日本一になるために

郡山商業高等学校珠算部

熊谷 由美

全国簿記電卓競技大会に出場し、電卓競技高等学校の部において、団体総合・個人総合競技ともに優勝することができました。

今年は、団体二連覇、個人での優勝を目標として練習してきました。日本一になるためには他校が行っていない声出しなどを取り入れています。また、長時間練習し続けると腱鞘炎になるので腕を休ませ、大会当日に最高の状態で臨めるようにしました。

今、私たちがこうやって日本一になることができているのは、顧問の先生と今までの先輩方が郡商珠算部の道を切り拓いてくださったからです。

私たちは、これからも感謝の気持ち忘れず練習に取り組み、応援、支えてくださっている多くの方々に「日本一」という形で、恩返しをしていきますので今後とも応援よろしく願っています。

全日本合唱コンクール 全国大会に参加して

会津高等学校合唱部

顧問 大竹 隆

去る十月二十五日、岩手県盛岡市の岩手県民会館で開催されました第六十七回全日本合唱コンクール全国大会のBグループ（三十二名以上の部）に、東北支部代表として昨年に引き続き参加させていただきました。

二学年が修学旅行を途中切り上げての参加になりましたが、東北での開催が功を奏したの

か、思ったより緊張せず落ち着いて演奏を終えることができました。金賞並びに文部科学大臣賞を受賞することができました。竹久夢二の詩によるノスタルジックな切ない恋の痛みを詠った課題曲「鐘」、十字架が支えた重みとキリストが堪えた苦悩に対する祝福と畏敬の念が切々と語られる自由曲「おお 十字架よ」、会津高校生らしく大胆に繊細に、両曲とも詩の世界観、曲の空気感を存分に表現できたと思います。

これまで築いてこれた先輩方、常に惜しまぬご支援をして頂いた保護者と学校関係の皆様、そして地域の皆様に心より感謝申し上げます。今後もコンクールにとられず、意義ある活動をして参りたいと思いますので、よろしく願っています。

私はこの三年間で、競技かるたを通して、何物にも変え難い仲間、つながり、時間、経験をえました。やり切ったとは、正にこの事だと思っております。全力で駆け抜けた私の三年間の中で、お世話になった先生方、先輩方、応援して下さった方々、そして何よりの支えになってくれた仲間達に心から感謝します。今後も後輩を通してかるたに関わり、福島県に競技かるたを広めていこうと思います。



「いばらき総文」に参加して

安積黎明高等学校

三年 星 杏奈

安積黎明かるた部としての最後の大会、七月三十、三十一日に茨城県で開催された「いばらき総文」という全国の舞台で、私は今年の目標を達成しました。小倉百人一首かるた部門の読手コンクールの部で二連覇をさせていたのです。

ただがむしやりに練習していた昨年とは違い、プレッシャー

のような素晴らしい経験をさせていただくことができたのは、これまで一緒に活動してきた家庭クラブ員の仲間やご指導して下さった顧問の先生方、そして協力してくれた家族のおかげだと感謝しています。今後はこの経験を誇りに思い、祖母のサポート継続はもちろん、今までの私の研究を支えて下さった方々へ感謝の気持ちを持って生活していきたいと思っています。そして将来は地域を支える社会福祉士になり、たくさんの方々をサポートしていきたいと思っています。

予選を突破した三人の中で、本審査での私の審査は三番目でした。あまりの緊張に、監督の先生や仲間へ我儘を言って、本番直前まで私は会場に入りませんでした。そのおかげもあってか、審査はほぼいつも通りの詠みを披露することができました。



全国家庭クラブ研究発表大会 文部科学大臣賞を受賞して

喜多方東高等学校

三年 長谷川真由

私は山口市民会館で行われた第六十二回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会ホームプロジェクトの部に東北ブロックの代表として「希望につながるリハビリを、脳梗塞の回復改善を目指して」と題して家庭クラブ員と共に発表してきました。

研究発表はとても緊張していましたが、今までの練習の成果をすべて発揮しようという思いで一杯でした。本番では十五分という限られた時間の中で練習通りの発表をすることができ、達成感を感じることができました。

審査結果で文部科学大臣賞に私たちの名前が呼ばれた時には、嬉しさと感動で一杯になりました。同時に今後も祖母のサポートをしていきたいと強く感じました。

私にとってこの二日間は人生の大きな宝物となりました。こ



努力と感謝

郡山東高等学校

吉田 成美

私は、全国高等学校総合文化祭書道部門に参加し、特別賞をいただくことができたが、そこに至るまでには、数々の困難がありました。

縦二メートル四十センチ、横約一メートルという、大きな和紙に、二百五十字近くの文字を書くので、強い集中力が求められました。何回も失敗し、初めから書き直しをすることが悔しくて悲しくて、何度も部屋で泣いてしまいました。しかしそんなときに、いつも声をかけてく

れたのは、部の仲間でした。時には優しく、時には厳しく、常に一人ではないということを感じさせてくれました。そして顧問の先生の励ましと、熱心なご指導に感謝して努力を重ねました。

全国大会は茨城県で行われ、会場には、全国から推薦された三百点以上の作品が展示されていました。大会最終日の表彰式で、名前を呼ばれた時はとても驚きましたし、心から嬉しい気持ちでいっぱいでした。でも私は、この賞を自分だけの力で勝ち取ったとは思っていません。

仲間、先生、家族の支えがなければ、納得のいく作品を書けていなかったと思います。全ての人々に感謝しています。今後も後輩たちが素敵な作品を作り上げ、活躍してくれることを願っています。

インターハイ アベック優勝

富岡高等学校

男子主将 林 達也

八月に千葉県で行われたインターハイでは、史上初となる男女アベック優勝を成し遂げることができました。

初戦から優勝するまで、気が抜けない試合ばかりでした。チームの一人一人が最高のプレーをしつづけて迎えた決勝戦の相手は、三月に行われた全国選抜で一度負けた高校でした。

しかし、選手、サポートが一丸となり、チーム全員で戦った結果、優勝を勝ち取ることができました。ギャラリで応援してくださった保護者の方々に恩返しをすることができて、とても良い思い出となりました。

チームの目標であった全種目制覇の夢は、次の世代の後輩たちが成し遂げてくれると思います。これからも日々精進していきますので、応援よろしく願います。

女子主将 濱北 もも

今年のインターハイは、八月一日から千葉県千葉市で行われました。三年生にとっては中学一年生から一緒に活動してきた



六年間の集大成なので、いつもと違う特別な気持ちがあります。

インターハイの当日を迎えるまで、個人個人が自分の課題克服に取り組むのはもちろんのこと、チームとしても万全の準備をすることができました。

そして、迎えたインターハイ。今まで支えて下さった方々への感謝の気持ちを胸に、一戦一戦全力で戦いました。その結果、史上初となる男女アベック優勝を達成することができました。「富岡高校」というゼッケンを背負ってコートに立つことができて、とても誇らしく、そして嬉しく思います。

アベック優勝は達成しましたが、まだ私達の最大の目標である全種目制覇は達成していません。この目標は、後輩達に託したいと思っています。皆さん、本当に応援ありがとうございます。

夢に向かって

福島工業高等学校

佐藤 啓隆

八月二日から六日まで山梨市で開催された全国高校総体（インターハイ）において、念願の総合優勝を果たすことができました。

昨年、長崎県で行われた全国高校総体では、トータル六位入賞することができ、そのときから次は表彰台上に上りたいという気持ちを持って頑張っていました。しかし、思いが強くなる

ほど空回りの日々が続く、秋口の頃から腰痛、肘の痛みなど怪我が多くなり、記録が全く伸びなくなりました。しかし、顧問の先生から励ましの言葉をいただき、今まではただ焦っていただけで気持ちに余裕がなかったということがわかったあたりから記録が伸び始め、三月に行われた全国選抜大会で初優勝することができました。その後も記録は順調に伸び、山梨インターハイでは、ベストコンディションで挑めば優勝できる可能性も見えてきました。

夢にまで見たインターハイ日本一に向けて現地入りしましたが、不思議と緊張感はなく集中力もありました。スナッチ競技では、地元山梨県の選手や宮城県の選手と優勝争いをする激戦となりましたが、パーフェクトな試合展開ができ、優勝することができました。クリーン＆ジャーク競技では、スタート重量の時点から成功すれば優勝が決定する場面でしたが、このときばかりは緊張して失敗してしまいました。しかし、二本目は気を取り直し、成功させ、最後の試技では自己新記録でしめくることができました。振り返ってみると、自信があるときは周りがよく見え、冷静に、良いイメージで競技できるということがわかりました。競技終了後の表彰式では、夢にまで見た一番高い場所でのメダルを授与され、とても感動するとともに、また一番になりたい、もっと強くなりたいと思うようになりました。

最後に、応援してくださった両親や顧問の先生、友人や部員の皆様に感謝申し上げます。また、今後とも皆様のご声援に応



えられるよう頑張つて競技を続けていきたいと思います。

団体優勝

二本松工業高等学校機械システム科

野地 裕太

「発艇一分前」。五百メートル決勝のレースが一分以内にスタートするというコールが響きました。普段なら緊張が最大に達する場面ですが、このときは違いました。それは、このレースが私にとって高校最後の五百メートルだったからです。私は中学生の頃からカヌー競技を行っていて、選手として六年目になります。このレースは、六年間ずっと目標にしていた全国優勝を果たす最後のチャンスでもありました。最後のチャンスをもにするために、大会前は東北の選手と一緒に合宿を行い、団体に備えました。六年間積み重ねた練習は自信へと変わり、緊張しすぎることなくスタートを迎えられました。スタート直後は出遅れてしまいましたが、私はラストパートに一番自信があったため、焦ることなく自分のレースを繰り広げることができました。ラスト二百メートルから一気にスタートをかけたので、六年かかって、やっとつかんだ優勝でした。

団体はもちろん、今まで支えてくださった方々、いつもお世話になっている先生方や先輩方、日頃応援してくださる皆様、そして一緒に練習を重ねてきた仲間に改めて感謝申し上げます。



栄 光 の 記 録

国体・高校総体・定時制通信制体育大会・高文連全国大会

第69回国民体育大会

●水泳競技		
寺田 拓末	湯本高等学校	
少年男子・A200mバタフライ	3 位	
●陸上競技		
遠藤 日向	学法石川高等学校	
少年男子・B3000m	1 位	
布川 輝	小高工業高等学校	
少年男子・B砲丸投	2 位	
渡部 佳朗	喜多方桐桜高等学校	
少年男子・A400mH	2 位	
小杉 恵理	会津学鳳高等学校	
少年女子・B100m	6 位	
村澤 雄平	会津学鳳高等学校	
少年男子・Aやり投	7 位	
●サッカー競技		
少年女子	4 位	
●ボクシング競技		
村上 真統	平工業高等学校	
少年男子ライトウェルター級	2 位	
高橋 烈	会津工業高等学校	
少年男子バンタム級	5 位	
五ノ井一幸	会津工業高等学校	
少年男子ウェルター級	5 位	
●レスリング競技		
湯浅 悠人	田島高等学校	
少年男子・グレコ66kg級	3 位	
我妻志比古	田島高等学校	
少年男子・フリー74kg級	5 位	
●ウエイトリフティング競技		
佐藤 啓隆	福島工業高等学校	
少年男子・94kg級C & J	1 位	
佐藤 啓隆	福島工業高等学校	
少年男子・94kg級スナッチ	2 位	
菅野 直人	田村高等学校	
少年男子・105kg級C & J	3 位	
菅野 直人	田村高等学校	
少年男子・105kg級スナッチ	7 位	
●自転車競技		
男子4kmチームパーシュート	4 位	
渡辺 将太	白河実業高等学校	
少年男子・ポイントレース	6 位	
伊藤 近	平工業高等学校	
少年男子・ケイリン	7 位	
中村 滝一	平工業高等学校	
少年男子・1kmT・T	8 位	
●馬術競技		
少年・団体障害	2 位	

●フェンシング競技		
少年男子フルーレ	8 位	
●バドミントン競技		
少年男子	3 位	
少年女子	1 位	
●カヌー競技		
野地 裕太	二本松工業高等学校	
少年男子K-1 500m	1 位	
野地 裕太	二本松工業高等学校	
少年男子K-1 200m	2 位	
小久保南海	安達高等学校	
少年女子WK-1 200m	2 位	
小久保南海	安達高等学校	
少年女子WK-1 500m	4 位	
●空手道競技		
佐藤 競	勿来工業高等学校	
少年男子・形	4 位	
井芹 麻美	学法福島高等学校	
少年女子・組手	5 位	
●なぎなた競技		
少年男子・形	7 位	
●ゴルフ競技		
少年女子	3 位	

平成26年度全国高等学校総合体育大会

●陸上競技		
山下 潤	福島高等学校	
男子200m	3 位	
林 尚範	学法石川高等学校	
男子1500m	7 位	
●水泳(競泳)		
寺田 拓末	湯本高等学校	
男子100mバタフライ	5 位	
男子200mバタフライ	7 位	
●バドミントン		
富岡高等学校	男子団体	1 位
古賀 穂	富岡高等学校	
男子シングルス	1 位	
渡辺 勇大・三橋 健也	富岡高等学校	
男子ダブルス	2 位	
富岡高等学校	女子団体	1 位
●相撲		
志賀 秀登	相馬農業高等学校	
個人	5 位	
●ボート		
渡部 湧也	西会津高等学校	
男子シングルスカル	6 位	

●自転車競技		
学法石川高等学校		
4kmチーム・パーシュート	6 位	
近藤雄一郎	学法石川高等学校	
4km速度競走	2 位	
鈴木 涼介	白河実業高等学校	
4km速度競走	8 位	
松本 道郎	白河実業高等学校	
スクラッチ	3 位	
小沢 尚斗	白河実業高等学校	
3kmインディヴィジュアルパーシュート	8 位	
渡辺 将太	白河実業高等学校	
ポイントレース	6 位	
●ウエイトリフティング		
後藤 潤也	福島明成高等学校	
56kg級クリーン&ジャーク	7 位	
佐藤 啓隆	福島工業高等学校	
94kg級スナッチ	1 位	
94kg級クリーン&ジャーク	1 位	
94kg級トータル	1 位	
大河内 優	川俣高等学校	
94kg級スナッチ	7 位	
94kg級クリーン&ジャーク	3 位	
94kg級トータル	5 位	
菅野 直人	田村高等学校	
105kg級クリーン&ジャーク	4 位	
105kg級トータル	8 位	
●ボクシング		
高橋 烈	会津工業高等学校	
バンタム級	5 位	
●なぎなた		
会津学鳳高等学校	団体	5 位
遠藤 紫乃・白石 桃子		
会津学鳳高等学校	演技	2 位
●カヌー		
野地 裕太	二本松工業高等学校	
男子スプリントK1(200)	4 位	
男子スプリントK1(500)	4 位	

第48回全日本高等学校馬術競技大会

●馬術		
福島明成高等学校	団体	2 位

平成26年度 全国高等学校定時制通信制体育大会

●柔道		
男子団体	3 位	
長岡 翔	東日本昌平高等学校	

長岡 拓	東日本昌平高等学校
渡部 晃太	東日本昌平高等学校
関口 琉維	東日本昌平高等学校
大倉 祐樹	福島工業高等学校
小河原 真	星槎国際高等学校
渡辺 悠斗	いわき翠の杜高等学校

平成26年度高文連専門部全国大会

(団体)		
●第5回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト		
郡山北工業高等学校	国内予選3年連続 1 位	
郡山北工業高等学校	First Prize 1 位	
●第72回全日本学生児童発明くふう展		
郡山北工業高等学校	内閣総理大臣賞	
●第61回NHK杯全国高校放送コンテスト		
テレビドキュメント部門	優勝	
磐城高等学校		
●第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会		
ビデオメッセージ部門	優秀賞	
磐城校が丘高等学校		
オーディオビクチャー部門	優秀賞	
湯本高等学校		
●全国高等学校珠算・電卓競技大会		
団体	郡山商業高等学校	優勝
伝票算	郡山商業高等学校	優勝
●全国電卓競技大会		
団体	郡山商業高等学校	優勝
個人総合	郡山商業高等学校	優勝・準優勝

●全日本電卓競技大会		
団体	郡山商業高等学校	優勝
●第62回全国高等学校決勝弁論大会		
団体の部	会津高等学校	準優勝(群馬県議会議長賞)
●第81回NHK学校音楽コンクール		
高等学校の部	郡山高等学校	銀賞
	安積黎明高等学校	銅賞
●第67回全日本合唱コンクール全国大会		
高等学校の部	会津高等学校	金賞(文部科学大臣賞)
	郡山高等学校	金賞(若手県知事賞)
●第24回全国高等学校文芸コンクール		
磐城高等学校		優良賞
●第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会		
小倉百人一首かるた競技の部	福島県合同チーム	
	(安積黎明高等学校・あさか開成高等学校)	奨励賞

化学部門	福島県立磐城高等学校	奨励賞
------	------------	-----

(個人)		
●第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会		
小倉百人一首かるた読手コンクールの部	星 杏奈	安積黎明高等学校
		全国最優秀読手賞
		全日本かるた協会会長賞

●全国電卓競技大会		
個人総合		
熊谷 由美	郡山商業高等学校	優勝
鈴木 樹里	郡山商業高等学校	準優勝
電卓の部	伝票算競技	
鈴木沙也加	郡山商業高等学校	2 等(全国 3 位)
金成 杏美	郡山商業高等学校	2 等(全国 2 位)
●全国高等学校珠算・電卓競技大会		
個人総合		
熊谷 由美	郡山商業高等学校	2 等(全国 3 位)
鈴木 樹里	郡山商業高等学校	2 等(全国 2 位)
伝票算競技		
熊谷 由美	郡山商業高等学校	2 等
鈴木 樹里	郡山商業高等学校	優勝
応用計算競技		
熊谷 由美	郡山商業高等学校	2 等(全国 2 位)
鈴木 樹里	郡山商業高等学校	2 等(全国 3 位)

●全日本電卓競技大会		
個人総合競技		
鈴木 樹里	郡山商業高等学校	2 位
●第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会		
ホームプロジェクト部門	長谷川真由	喜多方東高等学校
		文部科学大臣賞
●第62回全国高等学校決勝弁論大会		
個人の部		
古川のどか	郡山女子大学付属高等学校	準優勝(館林市議会議長賞)
●第23回国際高校生選抜書展		
渡辺 愛美	福島西高等学校	大賞
●第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会		
書道		
吉田 成美	郡山東高等学校	特別賞

浪江高校の 今

たくましい心を
育てる学校を
目指して！

校長 佐藤 肇

ふるさと浪江をあとにして復興四年目となる平成二十六年、本校は福島県立本宮高等学校の仮設校舎での三度目の春を迎えました。平成二十三年五月から安達・好間サテライト校で教育活動を再開し、二十四年四月にはこの本宮にサテライト校が集約されました。平成二十四年度に四十七名、二十五年度には二十名の卒業生がこの学舎から巣立っていききました。今日に至るまで、全国より心温まる多大な物心両面にわたる御支援をいただき、改めて感謝申し上げます。

本校はこれまで校是「知性・優雅」の精神に示された自主的態度を育み、確かな学力を身につけさせるとともに、自律性・社会性を育て人に優しく思いやりのある、心豊かな生徒を育成してまいりました。新年度は一年十四名、二年十四名、三年五名の計三十三名でスタートしました。地元の復興に貢献できる人材の育成を目指し、ボランティア活動や様々な資格取得に特に力を入れております。

仮設校舎での何かと制約のある教育環境ではありますが、「浪江高校に入学して良かった」「本宮サテライトでの学校生活は充実していた」と生徒が感じられるように、充実感や達成感を醸成し、困難の中でもたくましく生徒が成長できるよう教育目標及び指導の重点のもと、生徒の進路希望実現に向けて指導・支援を行います。今後ともこれまでに、地域及び保護者の皆様の御支援・御協力をお願いいたします。

文化祭 ―三学年がそろって、最後の文化祭―

九月十八日、サンライズ本宮を会場に浪江高校の小文化祭が開催されました。夏休みが明けてまもなくから各学年ともクラス企画のアイデアを話し合いはじめ、短期間での準備作業です。それでも、各クラスによるダンスやムービーの上映、音楽部の発表や津島校も含めた音楽選択者による発表、お笑い芸人さんのステージなどもあり、充実した内容で行われました。サテライト校での文化祭開催は昨年の「青浪祭(せいらうさい)」以来、今回で二回目です。



三年 飯屋崎光太

今回の文化祭は、小文化祭といふこともあり、昨年の公開文化祭にくらべ準備期間が短く、放課後等の時間を使いながら各学年とも急いで準備してまいりました。

私たち三学年では、「バカッコイ」というムービーを制作しました。この企画に決まるまで、クラスで話し合いをしてきましたが、なかなか良い出し物や内容が決まりませんでした。ムービーを撮ろうと決まっても、何を撮るのか、テーマは何か、なかなか決まりませんでした。先生は「情熱大陸」を撮ろうと言っていました。自分はいい案がまったく出ませんでした。そんな中、小丸君が提案した「バカッコイ」のムービーをやろうと全員一致で決まり、

これはおもしろくなりそうだと思います。文化祭の一週間前のことでした。

「バカッコイ」に企画が決定し、実際にいんなことに挑戦し、ムービーを撮っていきました。最初は「難しそう」「いつ終わるんだろう」と思っていたようなシーンも、いざやってみるとそこまで難しくなかったです。撮影は順調で、予定していたよりスムーズに終わって「あれ、これいいの?」と意外とあっけなく撮り終えることができて驚きました。

完成したムービーを見たときは、自分が思っていたよりもクオリティの高い作品になったと感じました。リハースルの日に、本番当日もステージ上で自分と本田君とがすれちがってゴミ箱にボールを入れるシーンをやってみたらと先生に言われ、挑戦することになりました。練習不足で本番で成功できなかったのは残念でしたが、何もやらないよりはやって良かったと思います。

文化祭当日、今までに経験のない仮装をし、発表しました。恥ずかしさもありましたが、本田圭佑(ACミラン)に仮装して「スカッとした!」と言っていました。自分達でつくったムービーで、皆さんに喜んでもらえたのでよかったです。

高校生活最後の文化祭、いい思い出になりました。

安達太良登山

二年 松本 涼太

今回の安達太良登山では、人生初めての登山だったので、さまざまな体験をすることができました。安達太良山は登山の中では初級コースと聞いているので、すんなりと登れるかと思っていました。が、実際は道も始めこそ安全に板などが張ってあって、歩きやすかったのですが、途中の道からは岩があったり石なども転がっていて、当日、私は筋肉痛だったので岩などを避けて登るのがとても辛かったです。さらに登っていくと大き



(進路研究部通信第三号より)

な岩も増えてきて、足をあげて進むのが大変でこれはもしかしたら頂上までいけないんじゃないかと思うくらい、だんだん心が折れそうになって足取りも重くなってきました。でも、ある程度登ってから後ろをふり返ると、そこから見える景色がとて綺麗で頂上までいった景色はもっと綺麗だろうと思ったので、頑張って歩いて登って行きました。

その後ゴンドラに乗りつても、やっとの思いで頂上に辿り着くことができました。頂上から見る景色は思っていた通り、自然もたくさんで素晴らしいです。

しかし、登った後は下山もしないといけない。仕方なく道を下っていたのですが、その下山中の道も上りより大変で一歩間違えれば転んで怪我をしそうな道で、恐怖を感じました。長い時間下り続け、ゴール地点の場所が見えてくると登り終わった達成感を感じてとても気持ち良かったです。安達太良山は自然も空気も綺麗なので、たまにはまた挑戦してみてもいいかなと思いました。冬はスキーやスノーボードをするためにまた山に行きますがそのときは滑るだけなので楽に下山できると思います。